

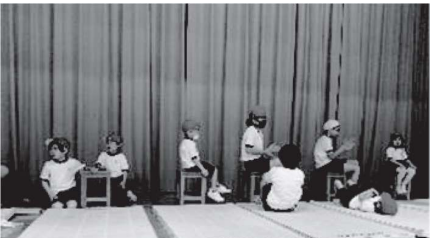
# 事例 1 1

<b>第 1 学年</b>	<b>5 月 第 8 週 入学 3 8 日目</b>	<b>げんき いっぱい うんどう だいすき</b>
---------------	--------------------------------	---------------------------

## 体育科学習指導案

単元名	「たいりょくテストの れんしゅうを しよう」
本時のねらい	○体力テストのやり方を知り、実際にやってみる。
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	<p>◎体力テストは入学して初めて体験するので、児童にとっては緊張の連続の学習となる。そこで入学時から関わってくれている6年生とペアを組み、見本を見せてもらったり個別に教わったりしながら安心してできるようにする。 【チャレンジタイム】</p> <p>○事前に、国語科や道徳、生活科で学んだ「挨拶の仕方」を確認し、6年生にしっかり挨拶ができるようにする。</p> <p>○6年生をまねて運動する。分からないことや戸惑っていることを自分から教えを求めて、運動の仕方や決まりを知る。</p> <p>○【主：主体的な活動、協：協働（協同）的な活動、言：言語活動】</p> <p>主 体力テストの仕方を知り、6年生の助言を基に、自力で行えるようになる。</p> <p>協 同じ運動する仲間と協力して用具を整えたり、互いに知らせ合ったりして、練習するルールを守る。</p> <p>言 知りたいことや分からないことをペアの児童に伝えて、助言を聞けるようにするとともに、同じ運動をしている友達と教え合う。</p>
※区幼保小の共通の視点	

## 展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点（★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫） ◆評価
<p>1 集合する。 6年生と挨拶をする。 小グループに分かれる。</p> <p>2 準備運動をする。</p> <p>3 練習する運動とグループ毎の動き方を確認する。</p> <p>4 グループ毎に測定を行う。 グループ毎に決められた順に測定場所を移動して、6年生とペアで測定する運動をする。 「上体起こしは、手をばってんに組むの」 「そう、脇をしっかり締めるんだよ」</p> <p>○記録カードの運動イラストを見て、運動にチャレンジする。</p> <p>○戸惑うことや分からないことは質問しながら、運動にチャレンジする。</p> <p>5 学年全体で集合する。</p> <p>6 整理運動をする。</p> <p>7 6年生に挨拶をする。</p>	<p>○事前に顔見知りしておく。</p> <p>○学級単位で集合し、6年生と向き合う体制をとる。</p> <p>○いつものように学年全体で声を合わせて挨拶をする。 「よろしくお願ひします。」</p> <p>○小グループに分かれてペアで活動する6年生に挨拶をする。</p> <p>○体力テストの内容に合わせて楽しく体を動かすものを取り入れる。</p> <p>○記録カードとグループ毎の動きを示したカードを見ながら、運動の順番を確認する。</p> <p>★グループの6年生と一緒に運動場所を移動して、ペアの6年生に教わり運動の仕方をまねて運動の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上体起こし：脇を閉めて腕を組み、上体を起こす。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <p>「組んだ腕の肘が膝に触れるまで引き上げるよ」</p> <p>「力を抜いて背中を伸ばした後、素早く体を起こすよ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長座体前屈：背中を壁にあてて、手足を伸ばしたまま両手で箱を押し出す。</li> <li>・反復横跳び：線を踏まないようにして、左右にステップを踏む。</li> <li>・立ち幅跳び：線を踏まないように踏み切る。</li> <li>・ソフトボール投げ：サークルから出ないようにして投げる。</li> </ul> <p>◆記録カードを見て考えたり6年生に教わったりしながら運動ができる。</p> <p>○頑張ったことやよかったことを伝え合う。</p> <p>◆考えたことや感じたことを発表できる。</p> <p>○簡単な内容で行う。</p> <p>○学年全体で6年生に感謝の気持ちを表す。</p>

## <指導のポイント>

### 安心・楽しさ

### 成長

### 自立

- ・顔見知りの6年生と一緒に合わせて行動
- ・6年生から教わり6年生の動きを参考にして運動の実施
- ・6年生の動きの模倣からよい動きへとチャレンジ
- ・分からないことを6年生に問い掛けながらチャレンジ
- ・1年生だけで運動の練習にチャレンジ

協  
主  
言  
主

## 安心・楽しさ

- 入学以降、いろいろな活動でお世話になっていて、慣れ親しんだ6年生と一緒に活動することで安心して運動ができる。
- 6年生の運動の仕方を見て、分からないことは教わり、実際に運動してみる。
- 言葉を掛けてもらおうと、うれしい気持ちがわく。

### <長座体前屈>



「背中をぴったり壁に付けて。」

「膝を伸ばしたまま、両手で押すよ。」

「しっかりのびているね。」

「息を吐きながら手を伸ばすといいよ。」



※ 1年生が自分で考えてチャレンジできるように、事前に6年生に助言の仕方や運動のリードの仕方をしっかり指導しておく。測定補助は6年生で分担してもらう。

## 成長

- よい記録を目指して、全力を發揮して運動をする。
- 記録カードや6年生の運動の様子から、運動の仕方を自分で考える。
- 記録カードの絵を参考に、運動のコツをつかみチャレンジできる。

### <立ち幅跳び>

「強く腕を振っているね。」

「しゃがむように踏み切っているね。」



「腕を振り下ろし、しゃがむように着地するよ。」



※ 記録カードをボードに付けて移動する。

## 自立

- タブレットの動画や6年生の見本を見て、自分たちでやってみる。
- 自分たちでできることを知り、運動することができる。

### <反復横跳び>



「左・中・右と繰り返し線をまたぐよ。」

「頭を内側に残すといいよ。」



「横にステップするんだよ。」

「線を踏まないようにね。」

## 事例 1 2

第 1 学年

6 月第 10 週  
入学 4 8 日目

げんき いっぱい がっこう だいすき

### 生活科学習指導案

単元名	「さいて ほしいな わたしの はな ～せわをしよう～」
本時のねらい	○変化に気づきながらアサガオを観察し、その成長を喜びながら気付いたことや自分の思いを観察カードに書く。 ○タブレット端末を使用してアサガオの写真を撮影し 観察カードに活用する
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	◎入学から 10 週がたち、児童は生活や学習規律も知り、学校の様々な新しい人・物・ことに興味をもち、幼児教育で培ってきた資質・能力を土台に、それぞれの児童なりの思いや願いを表出しながら学んでいる。そこで、教師主導の指示的な指導にならないように、児童が主体的に活動し、できた喜びが味わえる授業となるように指導の工夫をする。座学での静的な活動の後、動的な活動を行い、主体的、対話的で深い学びが実現できるように、ゆとりをもった 60 分の指導計画とする。 【わくわくタイム→チャレンジタイム】 ○タブレット端末の使い方に慣れるように、児童は、5 月より生活科ほか各教科等で、興味のある動植物や静物の写真を自由に撮り始める。家庭で操作を覚え友達にも教えらる児童、全く分からずに何度も大人の指導が必要な児童と、様々であるが、児童はゲームの仕方を覚えるように意欲的に取り組んでいる。本授業では、端末操作の技能が不十分な多くの児童に対応できるように、複数の教員等で協働して指導に当たる。
※区幼保小の共通の視点	○【 <b>主</b> ：主体的な活動、 <b>協</b> ：協働（協同）的な活動、 <b>言</b> ：言語活動】 <b>主</b> 実物投影機の映像や、活動の進め方などを明示した板書を見たり、先生や友達に聞いたりしながら、児童自ら考え判断し、進んで活動する。 <b>協</b> トリオの友達と教え合ったり手伝ったりするなど協力し、各自の観察カードを仕上げ、達成できた喜びを味わう。 <b>言</b> 授業時の話合いをまめに行う。また、日常活動の中でも、朝顔の日々の変化や、世話の仕方の工夫を話し合いながら育てていく。

### 展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点（★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫） ◆評価
1 朝の水やり時に気付いたことを話し合う。 「茎から葉が出てきた。」 「ひもみたいなものがでてきた。」 「あれは何だろう。」	○前回観察した時と比べて、アサガオの様子はどう変化があったのか、観察する。 ★前回と今日の様子の変化が分かりやすいように前回の写真を見せる。 「アサガオさん、前とどこか変わっていましたか。」 ★発表の前に、トリオの友達と話し合う時間を設ける。 ◆自分の育てている植物の変化や成長に気づき、発言している。
2 学級全体で話し合う。 「育ててくれてありがとう。」 「お水を、おいしいよ。」	○アサガオの気持ちを考え、今日のめあてへの導入をする。 「アサガオさん、お水をくれる人に何て言っているかな。」
3 自分のアサガオに掛ける言葉を考える。 「いっぱい花を咲かせてね。」 「毎日水をあげるね。」	★後半で自分のカードに書く際、参考になるように共有化しておく。 ○今日のめあて「じぶんの あさが おに てがみを かこう。」
4 ベランダに行きアサガオの写真を撮る。 「元気に育っているから早く花を咲かせてね。」	★観察カード上段に載せる、アサガオの写真を撮る。実物投影機や作業の進め方①～⑥を見て行わせる。一工程ずつ確認しながら作業を進める。 ◆自分のアサガオに愛情をもちその成長を喜び、もっと大きく育てたい思いをもっている。
5 観察カードに、「アサガオさんへのお手紙」を書く。	★作業で困ったときにはトリオの友達と協力し合う。また教員等に確認し、安心して行えるようにする。 ★平仮名が完全に書けない児童には、平仮名一覧表を掲示しておく。
6 本時の振り返りと、次時への活動について話し合う。	◆タブレット端末を使用してアサガオの写真が撮れる。自分が育てているアサガオに対する願いや思いをカードに記入している。

- ① ろぐいん さつえい、ですくとつぶ
- ② まなびぼけつ→すかいめにゆう  
→はっぴょうノート
- ③ しゃしん→教材・作品→ですくとつぶから  
えらぶ→ひらく・大きくする
- ④ せんせいの ところへ いく→いんさつ
- ⑤ あさがおさんに てがみを かく
- ⑥ せんせいに みせて ぶあいるに いれる





# 事例 1 3

第 1 学年	6月第 1 2週 入学 5 4 日	げんき いっぱい うんどう だいすき
--------	----------------------	--------------------

## 生活科学学習指導案

単元名	「めぎせ！みずあそび めいじん！」(D 水遊び)
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水につかって歩いたり走ったりすることができる。</li> <li>○友達と仲良く遊んだりバディをしたりすることができる。</li> <li>○準備運動や整理運動をしっかり行う、丁寧にシャワーを浴びる、プールサイドは走らない、プールに飛び込まない、友達とぶつからないように動くなどの水遊びのルールを守ろうとしている。</li> </ul>
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎幼児期の経験を小学校の学習につなぐため、幼児期からの学びと育ちを生かした活動を設定した。【わくわくタイム→チャレンジタイム】</li> <li>○国語の時間に、水遊びに関する絵本の読み聞かせを行う。また、道徳の学習を通して、自分の目標に向かって一生懸命努力する意欲と期待を高める。</li> <li>○第1時は、「プール開き」があり入水時間を短時間にした。健康観察カードの扱いや着替え、移動、プールサイドでの並び方やバディの仕方、シャワーの浴び方、プールへの入り方など、水遊びの学習に必要な様々な活動の仕方やルールなどを丁寧に学ばせた。また、低水位で、階段からプールに入り幼児期に経験してきた「動物まねっこ」などをして、安全・安心で楽しくできる水遊びのイメージをもたせるようにした。</li> <li>○柔軟な時間設定(90 分間)にした。</li> <li>○水遊びは園によって経験の差が大きいので、最初は低水位にすることや、準備や片付けの仕方や安全に関するルール、水遊びの心得などについて、共通理解を図っていく。</li> </ul>

## 展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点 (★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫) ◆評価
1 水着への着替え方を知り、着替えた児童からバディで遊ぶ。(オープン・教室) 2 挨拶・水遊びの約束やルールを確認する。(オープン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○順を追って着替える方法を説明し、並ぶときに必要な物(帽子・ゴーグル・タオル・洗濯ばさみ)を指導する。</li> <li>★児童に分かりやすいように、イラストで示し、黒板に貼っておく。</li> <li>★バディのペアは、体育の学習で整列したときのペアを活用する。</li> </ul>
3 プールに移動し、集合・バディで人数の確認を行う。「○さん、いるね」 4 準備運動を行う。シャワーを浴びる。「シャワー冷たくてできないよ。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プールサイドや水の中、入水の方法などの約束を確認する。実際に笛の合図で練習してみる。</li> <li>★分かりやすいようにイラストと文字で示す。</li> <li>○バディで命の確認をすることを、児童にも伝える。</li> <li>★水に恐怖心がある児童も安心して入水できるように、低水位にしておく。</li> <li>○体育の学習で使用している曲を使いながら準備運動を行い、楽しく学べる雰囲気作りをする。</li> <li>★シャワーの浴び方を指導し、嫌がる児童にはバケツにくんだ水をかけたりシャワートンネルを作ったりするなどの工夫をして対応する。</li> </ul>
5 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">水と友達タイム</span> プール探検をする。リズム水遊びや、水に慣れる遊びをする。 ・おじょうさん ・じゃんけん列車 「自分の体と相談タイム」をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>★プール探検をし、プールの深さや形状を覚えさせる。</li> <li>★教師のまねをさせながら、リズム水遊びを行わせる。苦手な児童には、教師が補助に入る。</li> <li>○易しい水慣れからはじめ、恐怖心がなくなるようにする。</li> <li>★ある程度行ったら、全員をプールサイドに上げ、自分の体の調子を確認させる。「自分の体と相談タイム」とし、体調を意識する習慣付けをする。観察や自ら訴えさせ、せきや悪寒のする児童などは待機させる。</li> <li>★水に顔をつけることが苦手な児童には、無理にさせない。水慣れしたところで徐々に顎→口→鼻→目へと水につける部分を増やすようにする。</li> <li>◆プールに飛び込まない、友達とぶつからないように動くなどの水遊びのルールを守ろうとしている。</li> </ul>
6 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ペアでウキウキタイム</span> ペアで水遊びをする。 ・じゃんけんぐりこ ・じゃんけん王様	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と仲良く活動することの大切さを伝え、ペアで楽しく活動できるようにする。</li> <li>★陸上でもやったことがある遊びを取り入れることで、安心感をもって水遊びができるようにする。安全面の指導をする。</li> <li>◆水につかって歩いたり走ったりすることができる。</li> <li>◆友達と仲良く協力し合って水遊びやバディができる。</li> </ul>
7 整理運動をする。 ・バディで人数確認 8 振り返りを行う。 9 シャワー・挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽を用いて整理運動を行い、使った部位をほぐす。</li> <li>○楽しく水遊びできたか、友達と一緒に楽しめたか、水遊びのルールを守れたか、の三観点で振り返りを行う。</li> <li>○シャワーのあとはしっかり水を拭くこと、うがいをすることを指導する。</li> </ul>



## <指導のポイント>

### 安全・安心

### 楽しさ 成長 自立

- ・ 幼児期の経験からの安心感や自信・意欲
- ・ リズムを用いて楽しい雰囲気づくり
- ・ 水遊びの心得、ルール(知識)、TT体制(安全管理)
- ・ 共通の目的意識・協働性、気付き、学ぶ意欲、達成感
- ・ 幼児期の学び・生活・精神の自立につながる活動

主 協 言

主

## 楽しさ・安全・安心

- ★実態調査を行い、個に応じた指導計画を立てる。  
(疾病のある子のほか、特に、水に恐怖心のある子、冷たさに弱い子、水に顔のつけられない子の実態を把握しておく)  
・「水慣れ」できるまで、細心の配慮が必要である。
- ★最初の1・2回(実態による)は、低水位(両手を水底につけてワニ歩きが可能なくらい)の深さにして、未経験の児童にも安心・安全に楽しめるようにする。水慣れの時間を十分に確保する。
- ★学校体制で行うプール水の管理や、TT授業

例 ○水位の管理や、気温が上がった4校時前後に第1学年が使うなど、全校で協働する。  
○様々な配慮の必要な児童に、できる限り対応できるように、増員等TT体制の充実を図る。

- ★水遊びのルールやマナーを身に付けさせよう。  
・水遊びのルール、準備・整理運動、衛生面(P143 参照)
- ★「ぶうる たんけん」を行う。プールの壁につかまりながらプールを1周する。プールの両端は浅く、真ん中が深いことを知る(同じ深さもあり)。
- ★自分の体調を意識(管理)する芽を育てる。
  - 1 家庭で健康観察カードに書くとき。
  - 2 学校で、プールに入る前にも体調を意識する(担任と相談)。家庭で○を付けてきても、直前の体調で入らない方がよいことを知っていく(P142 参照)。
  - 3 「自分の体と相談タイム」:入水して最初の休憩時(一連の水慣れの後)水から上がり、静かに「体と相談」する。  
「先生、熱っぽいからやめたい。」  
「どれどれ、じゃあ〜。」

- ★幼児期から行ってきた遊びを取り入れる。  
友達と心ゆくまで遊ぶ楽しさを味わう。

- ★バディを組み、命の確認をしたり、ペアで学習したりする(仲良く安心できるペアリングの工夫)。

- ★決まった動作を習慣化:「オノマトペ」や笛での合図  
「1、2、3、バタ足」  
「ピ・ピ・ピ・ピ」 「ピ・ピ・」  
他話を聞く、上がるとき

#### <参考>

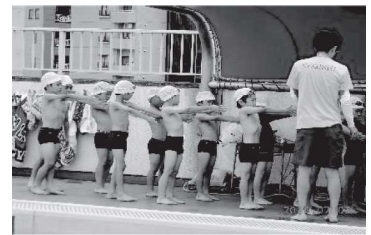
保育所等でも安全のための策を細かく決めて実施しています。



## 成長

- 安心して生活し自力を発揮できるようになる

- ★幼児期の経験をつなぐことで、自信や意欲をもって活動できるようにする。
- ★友達や教師に認められることで自己肯定感を高める。  
「友達と力を合わせるとできるよくなるかな。」  
「一人でやってみたいな。」



## 自立

- 一人で行動できるようになる

- ★自分で考え判断し行動するようになる。  
「先生に言われなくても自分から進んでやれるようになったよ。」  
「○○がうまくなったから、今度は◇◇にチャレンジするぞ。」  
「プールまで履いてきた靴は、きちんと並べるんだよ。」



- ★体調面・衛生面の確認を自分でもできるようになる。  
○プールサイドで最初の休憩。静かに「自分の体と相談タイム」  
・プールの中の確認(不調児童はいないか)。  
・プールサイドの児童の様子を観察・・・自分から不調を伝えに来る児童をまず認める。  
「自分の体のこと、よく言えたね。」 「熱はないね。」  
・水が苦手な児童を訴えてくる児童には、TT体制で少人数指導へ。「シャワーの所でやってみようか。」

- ★学校で学んだことを実生活で生かす。

- ・お風呂のシャワーの水を、高い所からかけて頭から洗ってみよう。
- ・海に行ったらお兄ちゃんとバディしよう(家庭との連携)。





## 意欲がもてる1年生独自の

水遊びスタート時用「進級カード」を！

### ◎「もぐる・浮く」前の項目を細かに

能力段階は、できるだけ細かい進級項目をつくりましょう。  
苦手な児童が、できた喜びから次への学びに向かう力が  
発揮できるように、細心の配慮をします。  
(その年度の児童の実態によって項目は柔軟に。)

#### みずあそび「できるかな」かあど(項目の例)

- 1 シャワーに足・手・腕・頭や胴体が当てられる
- 2 シャワーで手を使って頭から足まで洗える
- 3 プールサイドで友達とすぐバディができる
- 4 プールの壁につかまって、プールを1周できる
- 5 友達と水をかけ合うことができる。
- 6 手でかきながら水の中を歩ける
- 7 水の中で、相手を探してバディができる
- 8 水中を5m歩くことができる(プール横も可)
- 9 水中を5m走ることができる
- 10 水面に顔をつけることができる
- 11 水の中に頭までもぐれる

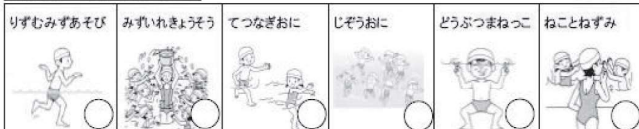
ここまでできれば  
あとは安心！

## めざせ！みずあそび めいじん！がくしゅう かあど

1ねん くみ

できたら○にいろをぬりましょう！

### みずとともだちたいむ



### べあで うきうきたいむ



### ぐるうぶ わくわくたいむ



こんなふうによってましたよ。

《きょうの がくしゅうを ふりかえろう》 ☺よくできた ☺ふつう ☹できなかった

	たのしくできた	なかよくできた	あんがたにできた		たのしくできた	なかよくできた	あんがたにできた
1	☺	☺	☺	2	☺	☺	☺
3	☺	☺	☺	4	☺	☺	☺
5	☺	☺	☺	6	☺	☺	☺
7	☺	☺	☺	8	☺	☺	☺
9	☺	☺	☺	10	☺	☺	☺
11	☺	☺	☺				

## 低学年の「水遊び」の内容

- ① 水に対する不安感を取り除く簡単な遊びを工夫すること。
- ② 水の中での運動遊びの楽しさや心地よさを味わうことができるようにすること。
- ③ 水にもぐることや浮くこと、息を止めたり吐いたりすること。

の技能を身に付けていくこと。

(小学校学習指導要領解説「体育編」教科の目標及び内容より)

- 事前に、実態調査をして、個々の児童の経験を把握しておきましょう(幼児時代にプールなどの施設や備品がなく水中での運動遊びや体に水のかかる経験が十分でない児童もいます。)

- 小学校に入学して初めての大きなプールでの水遊びです。児童が安心・安全に楽しめるよう、まずは「プール探検」をしてプールの形状などを知りましょう。

「学校のプールは大きいな。」

「プールの底が深くなってきたよ！」

- そして、水の苦手な児童に視点を当てて、「安心・安全・楽しさ」を目指したゆったりとした活動計画を立てましょう。

※ できる児童には、浅い水位のプールでも楽しめる水遊びを指導者が工夫します。

例:「ワニあるき」をしているとき、顔を水につけられる児童はつけるよう指示する。  
(小学校学習指導要領解説「体育編」より)

## 水が苦手な児童に安全・安心を

冷たいよ。寒い！  
顔にかかるのと怖い！  
水に押しつぶされる感じ(圧迫感)

- ・個別指導が必要不可欠
- ・ゆっくり丁寧に指導

シャワーを使った水慣れと衛生習慣作り



一緒に行こうね。



キャップを取って肩とか胸に挟んだら、両手を使って体を洗おうね！

- ・始めは心臓から遠い腕や脚からシャワーでの水遊び



# 事例14

第1学年

7月第13週  
入学64日目

たのしみだね なつやすみ

## 国語科学習指導案

単元名	「としょかんと なかよし」
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表紙や題名から好きな本を選ぶ。</li> <li>○読書記録の付け方を知り、書くことができる。</li> <li>○図書館活用の意欲を喚起し、夏休みの読書活動に生かそうとする。</li> </ul>
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	<p>◎幼児期から身近に絵本があり、保育者の読み聞かせを日常的に聞く経験をしてきた児童が多く、本が大好きである。小学校では、これまでに生活科の図書館探検や、国語科の「としょかんへ いこう」の学習を通して、図書館の決まりを知り、本を選んで読む活動を行っている。本時では、図書館に興味・関心をもった児童が、表紙や題名から読みたい本を選ぶ力を付けるとともに、図書館の活用を日常化し、自分で本を選ぶ力を夏休みの読書生活にも生かすようにしていく。</p> <p style="text-align: right;">【わくわくタイム→チャレンジタイム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活科との関連:生活科の単元「なつやすみを たのしく すごそう」を事前に学習して、夏休みにしてみたい遊びや活動のイメージを膨らませておく。</li> <li>○教師が選んだ本を読み聞かせることで、長く楽しい夏休みを想像させ、本を読む意欲と習慣化につなげる。</li> <li>○読書への意欲が高まるような読書記録の工夫をする。</li> </ul>

## 展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点(★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫) ◆評価
1 図書室に行く。 ○既習事項の確認をする。	○掲示してある絵や文字を見ながら振り返る。 図書室の約束:「しずかに」「本を大切に」「元の場所に返す」
2 「夏」をテーマにした本の読み聞かせを聞く。 『めっきらもつきらどおんどん』	○生活科「なつやすみをたのしくすごそう」で学習したことを振り返り、夏休みにやってみてみたいことを思い出す。 ○表紙や題名に着目させる問い掛けをし、児童がその重要性に気付くことができるようにする。
3 「夏」をテーマにしたブックトークを聞く。 「読んでみたい。」 「絵がきれいだね。」	★平仮名の学習が終わったが、文字を読むことに苦手意識のある児童もいるため、字が少なく絵が多い本も用意する。 ★児童が読書を楽しみ感じられるように、挿絵を見て内容を確認しながら紹介する。 ★紹介し終わった本は、表紙が見えるようにスタンドに立てかける。
4 自分の読みたい本を選ぶ。 「動物の本は、どこにありますか。」 「海の本が読みたいな。」	★本の表紙や背表紙、題名を手掛かりにして読みたい本を探すとよいことを伝える。 ★読みたい本が選べない児童には、今までに読んだ本を思い出させたり、関心のありそうな本が置いてある場所に連れて行ったりする。 ○中身を確認し、自分で読むことができる本を選ばせる。 ○自分の読みたい本が置いてある場所が分からない場合は、聞きに来させる。 ◆表紙や題名を手掛かりに、積極的に様々な本を手に取り、読みたい本を選ぶことができる。
5 読書カードを書く。 ①書き方を知る。 ②読み聞かせで聞いた本について書く。 ③自分が選んだ本について書く。	○読み聞かせをした本を例に、読書記録の付け方を理解させる。 ○読書記録は負担にならないように難しくせず、「日付」「題名」「お気に入りの印」を書かせるようにする。 ★書画カメラを使用し、児童が安心して書けるようにする。 ★題名の長い本に関しては、大きく書かれた文字のみを記録させる。 ◆読書カードの書き方を知り、書くことができる。
6 振り返りをする。 「海の絵の本を見つけた。」 「ぼくは、読書カードに、たくさん印を書きたい。」	○どのようにしたら好きな本を見付けられたか、話し合わせる。 ①何を手掛かりにして選んだか。 ②好きな本を見付けられたか。 ★夏休みの楽しい遊びや活動の中に、継続した読書があることに気付かせ、読書の記録も含めて楽しめるような話の工夫をする。



<指導のポイント>

安心・楽しさ

成長

自立

- ・たくさんの本を見たり選んだりする楽しさ
- ・どの児童にも分かりやすく、学びやすい環境づくり
- ・幼児期や生活科での遊びの経験から、夏休みへの希望や期待
- ・夏休みにやりたいことや課題への目的意識・意欲
- ・自分でできるようになったという自覚、自信、実践力

国  
国 国  
国

安心・楽しさ

小学校に入学して初めての夏休みを経験する(多くの保育施設では長期の「夏休み」を設けていないので、該当する児童にとっては長期休業が初めての経験になることを把握しておきたい。)

国語科では、夏休みを楽しく有意義に過ごすために、生活科の学習と関連させ、やってみたいことを考えさせた。夏休みの楽しい活動の中の一つに、読書活動が入るように、国語科を通して、本の選び方や読書記録の付け方の教材開発をした。

■読書の楽しさを味わわせる

- ・読み聞かせをする(下段「■本の選定」参照)。
- ・読み聞かせと関連させ、夏に関するブックトークをし、夏休みへの期待を膨らませるとともに、読みたい本を選ぶ際の参考にしたり、活動の意欲を高めたりする。
- ・本選びに迷っている児童には、興味のある本が置いてある場所へ案内したり、助言したりする。
- ・おすすめの本を一か所に集めておく。



■付けたくなるような読書記録の工夫

- ・自分だけの「お気に入りの印」を考えさせる。
- ・日付、題名、印のみの簡単なカードにする。
- ・カードを冊子にまとめることで、自分が考えた印をいくつも集められるようにした。

■ICT機器の活用

- ・書画カメラや大型提示装置を活用し、教師が示範するのを見て書く。

■本の選定

- ・読み聞かせの本は、図書館司書や区内同学年の教諭と連携して、1年生の実態に合った本を選定した(関連:P182「スタートカリキュラムにつながる教材」)。
- ・幼児教育とのつながりを意識し、幼児期に体験した絵本なども組み込む。

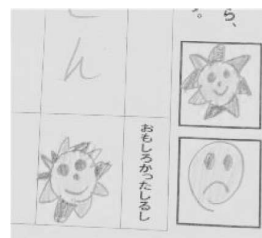
成長

- ・本の筋書きを簡単に紹介したが、読み聞かせの方法をとることもできる。
- ・興味・関心のある本が置いてある場所を探したり、教師や友達に聞いたりして主体的に活動する。

自立

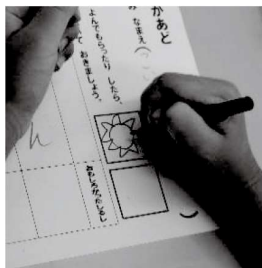
■自分で考え、自己決定できる

- ・表紙や題名を手がかりにして、積極的に本を探し、選ぶことができる。
- ・「お気に入りの印」を考え、カードに記入することができる(読んだ感想が「まあまあ」の印を考えた児童もいる。)



【お気に入りの印】

- ・読書後におもしろかった本の読書記録を書くときには、自分が一番好きな「お気に入りの印」を描くことができる。児童は「お気に入りの印」をたくさん描きたいので、国語科での既習内容を生かし、自分にとって興味のある本かどうかをよく吟味して、本選びを行う。



【読書カードを書く】

- ・夏休みの生活の中で、「読書をした後の振り返り」として、「おもしろかった」「まあまあ」などの印を付けられることや、その印は自分で考えた「お気に入りの印」を使ってよいということから、意欲的に読書活動ができることを期待している。これらの活動は、長期休業や2学期以降の読書活動にも生かし、つなげていく。
- ・既習事項を確認した上で、主体的に活動することができるようにする。
- ・本選びの際には、テーマを「夏」に限定しないことで、自分の読みたい本を自分で考えて選べるようにした。

# 事例 15

第1学年	7月第14週 入学65日目	たのしみだね なつやすみ
------	------------------	--------------

## 生活科学習指導案

単元名	「なつやすみを たのしく すごそう」
本時のねらい	○夏休みにしてみたいことや、がんばりたいことを話し、夏休みの計画を立てることができるようにする。
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	<p>◎幼児期や小学校入学後に経験してきた夏の遊びや活動を基に、自分で夏休みの計画を立てる活動を設定する。 【わくわくタイム→チャレンジタイム】</p> <p>○幼児期には、夏休みを経験した児童とそうでない児童がいる。小学校に入学後、初めての夏休みを迎える。夏休みのイメージを共有し、基本的な生活習慣を維持しつつ、安全に楽しく、見通しをもって夏休みを過ごせるようにする。</p> <p>【生活科】</p> <p>○生活科「なつが やってきた」で学習したこれまでの活動や幼児期の夏の体験を振り返り、夏遊びの楽しさを思い出せるようにして夏休みへの期待感を高める。</p> <p>○保護者には、保護者会等で予め本時のねらいや生活表を提示しておき、児童が自分で考えて決める際の参考になるよう、家庭で事前に話題にしてみらうことを依頼する。</p>

## 展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点（★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫） ◆評価
<p>1 今までの活動や幼児期の夏の遊びを振り返り夏遊びの楽しさを思い出す。 ・シャボン玉、砂場で山や川作り、公園で虫探し ・海、色水作り、泥団子作り、花火</p> <p>2 夏休みにどんな行事や楽しみがあるのか話し合いながら期待感を高める。 ・夏休みのプール、ラジオ体操、盆踊り</p>	<p>○教科書の内容を見返す。 ○今までの活動を記録した映像を提示し、夏遊びのどんなことが楽しかったのか話し合えるようにする。 ★幼児期に経験した夏の遊びや行事を想起させる（夏休みがない保育施設も多いので、「夏休み」の言葉で限定しない配慮をする。）。</p> <p>★1・2ともに、思い出したり考えたりできない児童には、教科書に載っている夏の写真やイラストを見る（視覚に訴える）よう促し、夏の遊びや活動のイメージをもてるようにする。 ◆小学校に入学して初めての夏休みについて、これまでの夏の遊びや活動から、具体的なイメージをもち期待感を高める。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">なつやすみに やってみたいことを かんがえよう。</div>	
<p>3 夏休みにやってみたいことを考える。 ・海で泳ぎたい、山に登りたい、花火をしたい。 ・本を20冊読む、山の虫を調べる、プールの横を泳げるようにする。</p>	<p>★生活表を見せ、夏休みが長期であることを感じ取らせる。小学校入学後、初めての長期休業日を見通しをもって過ごせるように、ワークシートに「やってみたいこと」と「毎日頑張りたいこと」という観点を示し、今から行う活動の見通しをもたせる。</p> <p>★夏休みが「楽しみ」と感じられるように、「やってみたいこと」（楽しむことや目標をもってチャレンジすることも含める）を自由に考えたり話し合わせたりする（実現の可否は問わない。家庭の事情などについて配慮する。）。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">まいにち がんばりたいことを かんがえよう。</div>	
<p>4 一日の生活を具体的にイメージし、生活リズムについて話し合う。 ○夏休みにやることを知る。 ○「一日の生活」の仕方や気を付けたいことを知り、毎日頑張りたいことを考える。 「せいかつのめあて」 ・アサガオの世話や観察 ・早寝早起き ・毎日30分運動する ・時間を決めて勉強する 「おてつだい」 ・風呂掃除・新聞取り ・食器片付け ・洗濯物をたたむ</p> <p>5 まとめ 振り返り、次にやることを知らせる。</p>	<p>○水泳教室、学習教室など、また、アサガオの世話や夏休みの宿題（ワーク、生活表、自由研究など）をあらかじめ示して、頑張る内容に含めて考えられるようにする。</p> <p>★①学校や担任が決めて課すこと、②児童が主体的に考えて決めたり選択したりする内容を分けて説明する。 ①水泳教室・学習教室、アサガオの世話、夏休みの宿題、毎日頑張ること（せいかつのめあて、おてつだい）を決めて頑張ること。 ②毎日頑張りたいこと：「せいかつのめあて」「おてつだい」の内容</p> <p>★1日の生活（起床から就寝まで）の絵図を示し、起床してから就寝までにすること等をイメージできるようにする。</p> <p>○起床、歯磨き、体操（運動）、勉強など一日の行動を確認する。 ○「健康に過ごすためにどんなことに気を付ければいいのか」「家族の一員としてできるお手伝いはどんなことがあるのか」を問い掛け、具体的な行動を話し合えるようにする。 ◆夏休みの生活の見通しを知り、やってみたいことや頑張りたいことを具体的に考えようとしている。（関心・意欲・態度）</p> <p>○夏休みの生活表を渡し、家で夏休みのめあてを伝えたり予定を保護者と話したりしてくるようになる。 ○ワークシートの内容や書けなかったところについて、再度保護者と話し合ってくるようになる。</p>

## <指導のポイント>

### 安全・安心

### 楽しさ

### 成長 自立

- 健康・安全な生活の仕方（知識）、家庭との協働体制
- 幼児期や生活科での遊びの経験から、夏休みへの希望や期待
- 自分のしたいことを考え計画できる楽しい雰囲気づくり
- 夏休みにやりたいことや課題への目的意識・意欲
- 自分でできる（ひとりだち）するという自覚・自信、達成感



## 楽しさ・安全・安心

小学校に入学して初めての長期休業「夏休み」を経験する。これまでも、園で経験した児童もいるが、半数の児童は、初めての「夏休み」を経験することになる。

また、経験のある児童にとっても、これまでの保護者主導の生活ではなく、「自分で考え自立して生活していける夏休み」になるように、「楽しさ・やる気」とともに、心身の「安心・安全」を意識できるように過ごすための計画を立てさせる。

★夏休みの長さを感じ取らせる。

空白の生活表(日数分の記入用罫線があるだけの真っ白なもの)を見せて視覚で訴える。土曜日や日曜日のように、学校に行かない日がずっと続くことを想像させる。

★「楽しい夏休み」のイメージをもたせる。

幼児期から行ってきた夏の遊びや、生活科を中心とした学校での「夏の遊び」の経験などから「夏休みにどんな遊びをしたいか。どんなことをやってみたいか。」考えたり話し合ったりすることで、「夏休み」への期待をもたせる。

- 教科書の内容を見返し楽しかった遊びや活動を思い出す。
- 園の頃の夏の遊びで楽しかったのはどんなことか。
- 各家庭の様子に配慮する。



(例)「△△旅行(場所)」でなく、「海で泳ぐ(やってみたいこと・すること)」を話したり書いたりする。

★「安心・安全に過ごせる夏休み」の意識をもたせる：家庭と一体となった指導の工夫が重要！

夏休み中には、留守番をしたり、学校や子どもクラブに行ったり、家族と出掛けたりするなど、様々な活動や過ごし方をする。安心して安全に生活するために、その時々気をつけることなどにも触れていく。

- 健康安全と交通安全
- 水害、地震など
- 生活安全：出かけるときの約束、外での約束(「いかのおすし」、帰宅時刻や家の鍵を開けるときの約束など)

## 家庭との連携

## 成長

■興味・関心や、やってみようとする意欲をもてるようにする。

★「なつやすみの おてつだい」では、自分で考える→話し合う→深く考えるという活動を経て、家庭の状況(これまでの生活や家族との会話など)を考慮して決め、見通しをもたせる。

T「どんなお手伝いがちょうどよいか？」

「何をしたとき、家の人に喜ばれたかな？」

★夏休みにやってみようとすることや頑張りたいこと、気を付けたいことの計画を立てたり発表したりする。

★友達や教師に認められることで自己肯定感を高める。

「〇〇したら、ありがとうと言われたので、お手伝いしたい。」  
「家の鍵を開けるときは、周りを見るようにする。」



## 自立

■自分で考え判断し行動するようになる。

★夏休みの「生活リズム」(起床・就寝、食事や勉強、学校や子どもクラブに通う、お手伝い、遊びなど、1日の生活の流れ)について知り、規則正しい生活への意識や実践力を付ける。

★体調面・衛生面の確認を自分でもできるようにし、健康管理の意識をもつ。

★毎日、生活表に記入し振り返る。

生活表を付けることで、毎日を振り返る習慣付けをしていく。

- 「おてつだい」はできたか
- 「せいかつのめあて」は守れたか
- 守れなかったことは次の日頑張ろう(どうしたら守れるか考えてみよう)

できたことは認めてもらい自信をもつ。また、反省したことを、次の日から頑張ろうとする意欲(学びに向かう力)につなげていく。

(保護者や家族の温かい見守りや指導の工夫が大切)



※P148「社会に開かれた教育課程」参照

## 夏休みのめあてや生活表（例）

～生活科で学んだこと（学校での学び）を実生活（家庭・地域社会）で生かす～

この学習が基礎になり、様々な計画表を立て活用する経験を積んでいきます。小学校スタート時の児童にとって楽しく活用しやすいシートの工夫をしましょう。

○多くの一年生は、まだ字を小さく書けません。また、まっすぐ書くことも難しいです。  
○記入欄は広くし、何行も書くときは、罫線で区切っておきましょう。

たのしみだね なつやすみ

1ねん 2くみ なまえ( )

めあて：なつやすみに やってみたいことや がんばりたいことを かんがえよう。

A児

やってみたいこと	まいにち がんばりたいこと	
	せいかつの めあて	おてつだい
うみでおよく。 すいかわつてか かをありたい。	7じにおきる。 あさがおのみ ずやり。	こしよんのとき みんなめしを なげろ。

なつやすみの おわり に おうよう。

やってみたいこと・がんばりたいことは できましたか？	せいかつの めあては まいにち まもれましたか？	おてつだいを まいにち することが できましたか？
うみでおよげました。 すいかわつてはできなくて	まいにちでき ました。	いつでもできます。

B児

やってみたいこと	まいにち がんばりたいこと	
	せいかつの めあて	おてつだい
まのヨーヨーをつ てみたい。	はやねはやお きをする。	たべおわったみん なのしよまをかた づける。

なつやすみの おわり に おうよう。

やってみたいこと・がんばりたいことは できましたか？	せいかつの めあては まいにち まもれましたか？	おてつだいを まいにち することが できましたか？
えいごでまのヨーヨー つくれました。	まいにちできました。	りよこにいってるとき はできませんでした。



手伝いは、あまり難しくなく  
短時間でできる内容に。

児童が守れる具体的なめあて（生活表に付ける際に守れたかどうか児童に分かるように）、「早寝早起き」の時刻を話し合ってから始める。  
例「早寝は9時で早起きは7時にしたいな。」  
「ラジオ体操は公園で6時半からよ。」  
「それなら、6時にするよ。」  
「そうね。」  
「生活表に付けるとき、もし6時5分とか、ちよつと過ぎたら守れなかったことになるの？」  
「びつたりでなくても、少し前や少し後ならいいよ。」  
長い針が10から2までならよいことにしましょう。寝るときもね。」

## コラム

### 「社会に開かれた教育課程」とは？

平成29年に行われた小学校学習指導要領の改定は、平成28年中教審答申を踏まえて、3つの内容を基本的なねらいとして行った。その第1のねらいである。

- ① 教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実績や蓄積を生かし、子供たちが未来社会を切り開くための資質・能力を一層確実に育成することを目指すこと。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視すること

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 まえがき」より

### 学習指導要領と教育課程

- ・ 学習指導要領は教育課程の基準を大綱的に定めたもの

教育課程を通してこれからの時代に求められる教育を実現していくには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を作るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしなが、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

(・・・中略・・・)

児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼児期の教育の基礎の上に、中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、児童の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなる事を期待して、ここに小学校学習指導要領を定める。

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 前文」より

令和元年度 **たのしい なつやすみ**

やってみようこと **かいすいよく・キャンプ**

ひまわりのおきて **まいにちはやねおき** **そうじよくたくのじかんを**

なつやすみの せいかつひよう

月	日	よてい	できごと	★
7	20		かいらいよくをしました。	★
7	21		キャンプにいきました。	★
7	22	おてつだい	やのせじをしました。	★
7	23	おてつだい	おんせんとおかしのせじをしました。	★
7	24		ほんかごあそびをしました。	★
7	25		おんせんをしました。	★
8	30	おてつだい	おんせんをしました。	★
8	31		おんせんをしました。	★
9	1		おんせんをしました。	★

たのしかったこと、がんばったこと、こころにのこったこと  
**かいらいよくとほんかごあそび**  
**たのしくていっしょにのびました。**

おうちのひとから  
 なつやすみの  
 思い出の  
 よくやること  
 がありました。

一年生は色塗り大好き！  
 きちんと色塗りしたい児童も。  
 マークは単純に大きめに。

《おうちのひとから》欄への依頼  
 ・児童向けに書いていただきます。  
 ・児童が次なる意欲につながる表現に。

児童にも分かるように、ひらがなで。漢字で書く場合は、  
 ふりがなを付けるようにお願いしておきましょう。

おうちのひとから  
 はじめてのなつやすみ  
 まいにち、とてもたのしく  
 にすごしてしたので  
 よかったです。

おうちのひとから  
 あつまいにちをけんきに  
 すごしました。めあてをいさ  
 してがんばりました。  
 たくさんたのしいけんきを  
 して、よくわらってました。  
 おんせんもあそびました。  
 ありがとうございます。

おうちのひとから  
 たのしい遊びがたくさん  
 ありました。  
 めあての夏休み勉強も  
 がんばりに取り組み、毎日  
 ゴールまで頑張りました。  
 ありがとうございます。

担任と保護者の連携により、心身の健康や、めあて、経験の大切さ  
 など、温かく、かつ適切に書いてくださっています。

まとめの言葉(欄外など):担任も心を込めて認め価値付けを！

新学習指導要領による新しい教科書には  
 「保護者の皆様へ」の伝言や、保護者が一緒に  
 学べる二次元コードによる情報等が掲載されて  
 います。

「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す  
 これまで以上に保護者との連携・協働を重視

学校で学んだことを実生活で生かす

★夏休み前(事前)：一年生の生活科で学んだことが、家庭での「夏休み」の実生活に  
 生かせるよう学習内容を理解していただく。

- 夏休み中の生活や活動について、その内容や意図、計画などを1学期末の保護者会等で十分伝え、児童の見守りや指導(家庭教育)について考えてもらえるようにする。
- 夏休みの計画(生活表や「めあて」の表)を立てる授業よりも早めに保護者に協力を依頼しておく。(保護者会や学年・学級便りなど活用)
  - ・「夏休みのめあてやおてつだい」について、児童が自分で考え決める際の基になるような家庭でのアプローチ(日常生活の中で、夏休みの話や、やりたいこと、やってもらいたいことの話など)を事前をお願いしておく。
  - ・児童にできそうで家の役に立ついくつかの活動を、「夏休みに行く手伝い」として例に挙げ、普段の生活の中で話題にしたり、手伝えたりするようにしておく。「夏休みの計画」を立てる授業時に、児童は家庭での生活を想起できるので、主体的に自分で考え判断して決める「おてつだい」が、家族の納得のいく手伝いと概ね合致することになると考える(児童にとっては、授業中に自分が考えて決めたことを家に持ち帰った際に自分の意思とは違う手伝いなどを書き直すようなことになると、実際に活動するときの自信や意欲につながらない。)

★夏休み後(事後)：「学校教育」と「家庭教育」の連携・協働体制の振り返り

- 児童が書き上げた40日以上(長期)に及ぶ生活表等について、保護者や担任はまず取り組めたことを認め児童に成就感をもたせる。  
 なお、生活リズムについては、夏休みの終わりの頃の状況が2学期最初の生活に影響してくることも考慮に入れ、継続して2学期以降も連携・協働体制が必要となる場合がある。

# 事例16

第1学年 7月第15週 入学70日目

## たのしみだね なつやすみ

### 生活科学習指導案

単元名	「たのしかった ことを つたえよう」
本時のねらい	○これまでの活動を振り返り、気付いたことや楽しかったことを友達と交流できる。 ○工夫して遊ぶ楽しさに気付くとともに、できるようになったことを実際の生活に生かそうとすることができるようにする。
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	◎一学期の学習活動のまとめの時期である。幼児期や小学校入学に経験してきた遊びや活動を基に、気付いたことや楽しかったことを交流できるようにする。 【わくわくタイム→チャレンジタイム】 ○生活科で学習したこれまでの活動や幼児期の体験を振り返り、できるようになったことを考える。それを実際の生活につなげられるようにする。 ○第1時は、発表の方法を確認し、前半部分の紹介をした。後半部分を第2時(本時)とし、柔軟な時間設定(90分間)にすることで、安心して発表し、自分の活動を振り返る時間を設けるようにする。

### 展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点(★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫) ◆評価
1 前時の発表の続きで、遊びの紹介をする。	○今までの活動や幼児期の遊びを振り返り、その楽しさを思い出す。 ★前時までに、どんな遊びをしたことがあるか意見を出し合い共有する。 ★今までの学習が振り返りやすいように、写真や記録カードを掲示する。
<div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">「みずあそび」「むしさがし」「しゃぼん玉」「アサガオの色水」「すなばあそび」「くさばな・はっぱあそび」「おりがみ」「切り紙」など</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">おすすめの あそびを しょうかい しよう。</div>	
○各グループでおすすめの遊びを紹介する。 「わたしは、水遊びを紹介します。」 「ぼくは、むしさがしを紹介します。」 ○質問がある場合は、可能な範囲で応答する。	★安心して発表ができるよう、発表の始めと終わりに言うことを掲示しておく。 「わたしは、○○をしょうかいします。」「これで、しょうかいをおわります。」 ○なぜその遊びを紹介するのか、理由も話せるよう助言する。 ○友達に詳しく伝えるために、遊び方やコツだけでなく、自分が遊んだ時の出来事、工夫したこと、気付いたことなども入れるように言葉を掛ける。 ★各自が描いた絵を事前にタブレット端末に取り込んでおくことにより、発表時に大型提示装置に大きく映し出せるようにする。発表時に誰もが見やすい状態にすることにより、内容の理解につなげる。 ★遊びの種類ごとに発表させる。順番を一覧表にすることによって、何を発表しているのかが理解できるようにする。 ★発表した内容は自分も経験したことがないか、考えさせる。
2 遊びの紹介を振り返る。 ○発表を振り返り、記録カードに書く。	○発表する際に工夫した点や、友達と協力していた点を紹介する。
<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">できるように なったことを ふりかえろう。</div>	
3 自分の活動を振り返り、単元を通して、これまでにできるようになったことを考える。 「自分から挨拶ができるようになりました。」 「みんなで掃除を素早く終わらせられました。」	★隣など近くの席の友達と、これまでにできるようになったことを伝え合う。 ○単元全体を通して振り返りの場を設けることで、思考の深まりを促す。 ○「楽しかった」「できるようになった」という充実感を味わわせるとともに、「おうちでもやりたい」という次への意欲の高まりにつなげる。 ◆これまでの活動を振り返り、気付いたことや楽しかったことを友達と交流する活動を通して、工夫して遊ぶ楽しさに気付くとともに、できるようになったことを実際の生活に生かそうとしている。
4 学習を振り返る。	○できるようになったことを学級全体で共有することにより、日常で実践する意欲付けをする。

## <指導のポイント>

### 安全・安心・楽しさ

### 成長

### 自立

- ・密集を避け理解を促すためのICTの活用
- ・幼児期や生活科での遊びの経験からの安心感
- ・自分が楽しかったことを考え紹介できる  
楽しい雰囲気作り
- ・夏休みにやりたいことへの目的意識・意欲
- ・自分でできるという自覚・自信、実践力

主  
主 協 言

主

## 安全・安心

小学校に入学して初めての「長期休業」を経験する。これまでも、園で経験した児童もいるが、初めて「夏休み」を経験する児童も多い。

長い休みの中で、保護者主導の生活から、自分で考え、工夫しながら行動する意識ができるようにさせる。

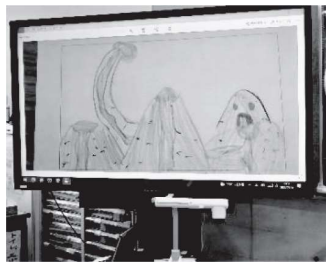
### ■既習の学びを想起させるための掲示物

今までの学習が振り返りやすいように、写真や記録カードを黒板に掲示する。



### ■ICTの活用…密を避け、理解を促すための工夫

各自が描いた絵を事前にタブレット端末に取り込み、発表時に画面に大きく映し出す。誰もが見やすい状態にする。



### ■カードの掲示…安心して発表ができる環境づくり

- ①発表の始めと終わりに言うことを黒板に掲示する。
- ②発表順を一覧にして掲示することによって、次に誰が発表するかが分かるようにする。



## 楽しさ

### ■幼児期の経験の接続

これまでの経験を思い出すことによって、自信と意欲をもって活動できるようにする。

### ■グループや近くの席の友達との関わり

遊びのグループの友達と一緒に発表の準備をしたり、近くの席の友達と考えを伝え合ったりすることにより、助け合い・学び合いの気持ちを育てる。

### ■相手意識をもつ

相手に伝わるように絵を描いたり説明を考えたりする。

## 成長

### ■自分で考え、表現する力の育成

- ・自分で考え判断し行動できるようになる。

「自分でちゃんと話せるよ。」  
「○○さんのように話そう。」



### ■自身の経験の想起

発表で聞いた内容は自分も経験したことがないか、できるようになったか、振り返らせる。

### ■実践意欲の向上

- ・「できるようになった」という自信をもち、実践意欲の高まりにつなげる。
- ・学校でできるようになったことを、家庭など日常生活でも自力でやろうと決める。

「アサガオの水やり、上手にできるようになったから、おうちでも毎日忘れずにやるよ。」  
「しゃぼん玉遊び、夏休みにやってみよう。」



# 事例17

<b>第1学年</b>	<b>9月第16週 入学76日目</b>	<b>あかるく げんきに 2がっき すたあと</b>
-------------	--------------------------	----------------------------

## 生活科学習指導案

単元名	「ききたいな ともだちの はなし」
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夏休みの経験を思い出しながら、友達に話すことができる。</li> <li>○様子を思い浮かべながら聞くことができる。</li> <li>○知りたいことを聞いたり感想を言ったりできる。</li> </ul>
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎初めての夏休みが明け、少しずつ学校生活のリズムを取り戻す時期である。教室での授業は久しぶりのため、45分の中で集中力を欠いたり姿勢が崩れたりする児童の姿が少なくない。そこで、夏休みの楽しい思い出を話題にした発表を取り入れることで、楽しく学べるような授業展開を行う。 【わくわく→チャレンジタイム】</li> <li>○自分の一番気に入った夏休みの作品や絵など、視覚に訴える物を見せたり、トリオ活動で恥ずかしがらずに自己を表出できるようにしたりするなど、児童が楽しく主体的に学びに向かえるように工夫する。</li> <li>○保護者には、7月の保護者会などで本時のねらいや配慮することなどを伝え、児童が夏休みにやってみたいことなどを話題にしてもらえるように協力を依頼しておく。</li> </ul>

## 展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点（★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫） ◆評価
<p>1 夏休みの思い出を振り返り、その楽しさを思い出し、友達に話したり聞いたりする。 「アサガオの世話」 「お手伝い」「水遊び」 「自由研究」「虫取り」 「読書」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★楽しい雰囲気の中で発表できるように、教室に児童の夏休みの作品を掲示しておく。</li> <li>★前時に行った、夏休みの思い出を振り返る活動を思い出させ、友達の夏休みの話も聞きたいという意欲を引き出させる。</li> <li>○夏休みのどのような話題について話すのかが分かるように、黒板にカードを掲示する。 「がんばったこと」「楽しかったこと」「初めてやったこと」「驚いたこと」</li> </ul>
<p>2 トリオ学習で「夏休みの思い出」を話し合う。  「○○さんの話、おもしろいな。」 「この絵は、何ですか。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★トリオ学習での発表の仕方を確認する。また、活動時間を十分に確保する。</li> <li>★トリオ学習にふさわしい声の大きさを確認できるように、「声のものさし表」を確認する。</li> <li>★対話が円滑に進むように、話の聞き方の良い例や質問例などを黒板に掲示する。</li> <li>★児童が安心して話せるように、絵を友達に見せながら発表する。また、聞く児童にとって理解しやすいように必要に応じて活動を止め、声の大きさや活動の仕方を再確認する。</li> </ul>
<p>3 全体で発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★質問の仕方が分からない児童には、机間指導の際に適宜個別指導をする。</li> <li>◆声の大きさや話し方に気を付けて、楽しみながら会話や発表をしている。</li> <li>◆友達の話に興味をもって聞き、話の内容を捉えて感想を伝えたり、質問をしたりしている。</li> </ul>
<p>4 学習を振り返る。 「友達の話が聞けてうれしかったです。」 「私もお手伝いをしたいと思いました。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夏休みの思い出を話したり、聞いたりした感想を発表させて、今後の活動への意欲をもたせる。</li> <li>★夏休みに取り組んだことや、継続して頑張ったことを2学期にも生かせるように意識付ける。</li> </ul>



<指導のポイント>

**安心・楽しさ**

**成長**

**自立**

- ・ペアやグループでの学習など、自己を表出しやすい工夫 主 協
- ・夏休みの思い出あふれる楽しい雰囲気作り（教室環境）
- ・自分の話だけでなく、友達の話も聞こうとする相手意識 主
- ・相手の話を聞き、自分もやってみようとする意欲 主 協 言
- ・自分の力で行動する主体性・実践力 主

**安心・楽しさ**

小学校に入学して初めての長期休業「夏休み」を経験した。学校の生活リズムを取り戻しながら、夏休みの思い出を友達と交流することで、2学期始めの楽しい時間になるようにする。

- 「楽しい夏休み」の思い出いっぱいの教室  
夏休みの絵日記、アサガオの観察カード、自由研究などを掲示することで、夏休みの思い出があふれる楽しい雰囲気を作り、友達の作品に興味・関心をもたせるようにする。

- 夏休みの思い出を振り返る  
事前に思い出を絵に描いておき、それを基に友達に話せるようにする(関連:図画工作)。

- 話しやすい、聞きやすい環境づくり  
恥ずかしがらずに自己を表出できるよう学級全体での発表の前に、ペアやトリオなどのグループ活動で行うように工夫する。



トリオ学習

- 家庭と一体となった指導計画の工夫  
夏休み明けの学習予定を連絡する。  
本時のねらいや配慮したいことなどを夏休み前に話し合い、児童が夏休みにやってみようことを家庭で話題にしてもらえるように協力を依頼しておく。

**成長**

- 自分の話だけでなく、友達の話も聞こうとする相手意識  
自分の夏休みの思い出を振り返らせることで、友達の話への興味・関心を高める。  
「〇〇さんの思い出も聞いてみたいな。」

- 話しやすい、聞きやすい環境づくり  
・対話が円滑に進むように、話の聞き方や質問例などを黒板に掲示するなど、資料(絵や声のものさし、質問例のカードなど)を見ながら、自分で学習活動を進められるようにする。  
・自然に拍手が起こる学級の雰囲気を醸成する。



「私も〇〇さんのような質問をしてみよう。」

**自立**

- 自分の力でできるようになる  
・ペアやトリオなどで、話したり聞いたりすることを繰り返すことで自信をもち、自分で考え判断し、他の力(援助)に頼らず、自分の力(意思)で行動できるようになる。

「みんなの前でも、もう一度話がしたいな。」  
「あのように話すこと、僕にもできるよ。」(挙手)  
「〇〇さんよく頑張ったな。ぼくも家でやろう。」

- 夏休み明けの生活リズムの立て直し  
友達との関わりを深め、学習活動への意欲を喚起する。

家庭との連携

事例18

第1学年 9月第17週 入学79日目

あかるく げんきに 2がっき すたあと

学級活動指導案

単元名	「まいにちの せいかつを ふりかえろう」
本時のねらい	○児童自身が「生活チェック表」を付けることで、自分の「家庭生活」を振り返る。 ○「生活チェック表」で自己評価したり友達の生活の様子を確認したりする。 ○2学期も規則正しい生活を送ることを意識する。 ○これから取り組むめあてをもつ。
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	◎初めての夏休みが明け、少しずつ学校生活のリズムや登校に合わせた家庭生活のリズムを取り戻すために、「生活チェック表」を付けて、自らの生活を振り返ったり、友達の生活と比較したりする。友達と関わりながら楽しく活動し、主体的な学びが生まれるようにする。楽しかった夏休みの生活を振り返ったり、これからの生活で意識することを考えたりする。いつも登校して先生や友達と関わるのが楽しく感じられるようにする。 ○夏休みに頑張ったことを振り返り、2学期に頑張ろうと思うことをカードに書き表す。 ○【主：主体的な活動、協：協働（協同）的な活動、言：言語活動】
※区幼保小の共通の視点	主 自分の生活を振り返り、「生活チェック表」を基に自己評価をする。これからよりよい生活をしようという思いをもつ。 協 友達と生活の状況を共有して、これからの生活改善についてともに考える。 言 友達や先生に今までの自分の生活の様子を伝えたり、友達の生活の様子を聞いたりして、今後意識することについて話し合う。

展開例

<p>主な学習活動 「予想される児童の反応」</p> <p>1 「生活チェック表」を見て、自分の生活を振り返り自己評価する。 ○夏休みの頃の生活と比べる。</p> <p>2 友達と互いの夏休みの思い出を伝え合う。</p> <p>3 ペアの友達と互いの「生活チェック表」を基に夏休みの頃と比べて、よくなったり頑張ったりしていることを伝え合う。これから頑張ろうと思うことも伝え合う。</p> <p>4 全体で友達の頑張っていることや自分がこれから頑張ろうと思うことを発表する。</p> <p>5 学習を振り返る。</p>	<p>○指導上の留意点（★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫） ◆評価</p> <p>○夏休みの頃の生活と今の生活を比べて、よくなったと思うことについて考えさせる。自分の一番よいところを探すように意識させる。</p> <p>★友達とペアになり、夏休みの生活を振り返り、楽しかった思い出を伝え合う。</p> <p>★ペアでの話合いにふさわしい声の大きさを「声のものさし表」で確認する。</p> <p>★話合いがうまく進められるように、話合いのポイントを黒板に示す。</p> <p>◆声の大きさや話し方に気を付けて発表している。</p> <p>◆友達の話に聞き入り、質問したり感想を言ったりしている。</p>	<p>生活チェック表(例)</p> <p>2がっき (9月7日～9月11日) なまえ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>こうもく</th> <th>2点</th> <th>1点</th> <th>0点</th> <th>7日(月)</th> <th>8日(火)</th> <th>9日(水)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 はやね</td> <td>きのう9時までにおきた。</td> <td>10時までに起きた。</td> <td>10時を過ぎて起きた。</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2 はやおき</td> <td>7時までに起きた。</td> <td>7時～7時30分までにおきた。</td> <td>7時30分を過ぎて起きた。</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3 朝ごはん</td> <td>たべた。</td> <td>たべた。</td> <td>たべなかった。</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>テレビやゲーム</td> <td>30分以内</td> <td>30分～1時間</td> <td>1時間30分以上</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>5 じぶんのめあて</td> <td colspan="3">はましーかりみがく。</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>おうちの人サイン 先生のサイン</p> <p>●まい日、よるのほみがきが おわたら チェックを しましょう。 ●3日間をふりかえって、1、2、3のどれか○をつけましょう。 ●おうちの方から 1、よくできた 2、できた 3、もうすこし</p> <p>●これから がんばりたいこと おてったいをする。</p>	こうもく	2点	1点	0点	7日(月)	8日(火)	9日(水)	1 はやね	きのう9時までにおきた。	10時までに起きた。	10時を過ぎて起きた。	1	2	2	2 はやおき	7時までに起きた。	7時～7時30分までにおきた。	7時30分を過ぎて起きた。	1	2	2	3 朝ごはん	たべた。	たべた。	たべなかった。	2	2	2	テレビやゲーム	30分以内	30分～1時間	1時間30分以上	2	2	2	5 じぶんのめあて	はましーかりみがく。			2	2	2
こうもく	2点	1点	0点	7日(月)	8日(火)	9日(水)																																						
1 はやね	きのう9時までにおきた。	10時までに起きた。	10時を過ぎて起きた。	1	2	2																																						
2 はやおき	7時までに起きた。	7時～7時30分までにおきた。	7時30分を過ぎて起きた。	1	2	2																																						
3 朝ごはん	たべた。	たべた。	たべなかった。	2	2	2																																						
テレビやゲーム	30分以内	30分～1時間	1時間30分以上	2	2	2																																						
5 じぶんのめあて	はましーかりみがく。			2	2	2																																						

<指導のポイント>

安心・楽しさ	・夏休みの振り返り	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-size: 2em; margin-right: 10px;">言</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-size: 2em; margin-right: 10px;">協</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-size: 2em;">主</div> </div>
成長	・ペアでの話合い	
自立	・友達の生活表と比較し自己の生活への自己評価 ・やることを自覚し、自らの生活に自信と達成感を持ち、新たな目標設定	

事例19

第1学年 9月第17週  
入学84日目

あかるく げんきに 2がっき すたあと

生活科学学習指導案

単元名	「さいて ほしいな わたしの はな ～たねが できたよ～」
本時のねらい	○夏休み中に家庭で行った世話などの活動を振り返る。 ○種を採って中の様子を観察する。 ○観察カードを見て、まく前の種と比較する。 ○種から育ててきたことを振り返る。
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	◎種から水やりをしながら育て、観察カードにその生長の様子を記録し、アサガオの生長と自分の努力を振り返る。アサガオの生長と開花、結実、種子収穫までを観察カードに記録することで、幼児期までに体験したことと合わせて、アサガオの生長について発芽から結実までを体系的に捉えさせる。友達と関わりながら楽しく主体的に学べるようにする。 ○夏休みに世話したことを振り返り、植物を育てるためには日常の活動の積み重ねが大切であることに気付くようにさせる。 ○継続的に植物の世話や観察ができるようにする。 ○【主】：主体的な活動、【協】：協働（協同）的な活動、【言】：言語活動
※区幼保小の共通の視点	【主】 種を収穫して、植物を育てる楽しさを感じ、また植物を育てたいという意欲をもつ。 【協】 世話の仕方や観察カードへの記入の仕方について友達とともに考える。 【言】 友達や先生にアサガオの生長や変化について伝えたり、友達の発表を聞いたりして、今後活動することについて話し合う。

展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点（★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫） ◆評価
1 アサガオの生長や自分の活動を振り返る。 ・水やりをがんばった ・タブレットでたくさん写真を撮った ・つるの向きを直した ・花の数を記録した	○今まで記録してきた観察カードをもとに、アサガオの生長や変化、自分が行った世話について発表させる。 ★友達とペアになり、アサガオの生長や変化、自分が行ったことについて話し合う。 ★ペアで話し合ったことや話し合っただけを全体に発表する。
2 種を収穫する。 ・収穫した種を観察する ・収穫した種を数える ・観察したことや種の数などを観察カードに記入する	○自分の育てたアサガオから種を収穫する。 ★ペアの友達と収穫した種を見せ合ったり、一緒に観察カードに記入したりする。 ◆声の大きさに気を付けて、アサガオの生長や変化、自分の行った世話について話し合ったり発表したりしている。 ◆種を収穫して、観察カードに記入している。
3 収穫した種の活用方法を考える。 ・種をプレゼントにする ・残ったつるでリースを作る	○収穫した種の活用方法について考えさせる。 ★ペアの友達と活用方法について話し合い、発表する。
4 学習を振り返る。	○次時の活動内容を確認する。

<b>&lt;指導のポイント&gt;</b>	
<b>安心・楽しさ</b>	・ペアの友達との話し合いや活動 <span style="float:right">【協】 【言】</span>
<b>成長</b>	・学級での水やりと観察から夏休み中の個人での世話、夏休み後の友達と連携した世話と観察 <span style="float:right">【主】</span>
<b>自立</b>	・夏休みも含め自分の力で育てて、その種の活用方法の考察 <span style="float:right">【主】</span>

## 事例20-①

第1学年

12月第31週  
～32週

たのしみだね ふゆやすみ

### 生活科学習指導案

単元名	「みんなの にこにこ 大きくせん ～ふゆやすみ まえ～」
本時のねらい	○家庭生活を調べる活動を通して、家の人がどんなときに「にこにこ」しているのかに気付き、「にこにこ だいさくせん」に積極的に取り組もうとする。
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	<p>◎幼児期や小学校入学後に経験してきた家庭生活に関わる活動や夏休みの活動を基に、家族が「にこにこ」するような計画を立て自分の力で実践できるようにする。</p> <p>○幼児期のお手伝い等の経験を振り返り、家族の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じるようにする。</p> <p>○保護者には、保護者会等であらかじめ本単元のねらいや冬休みの生活表を提示しておき、児童が自分で考えて家族の役に立つ行動を決める際の参考になるよう、家庭で事前に話題にしてもらうことを依頼する。</p> <p>○【<b>主</b>：主体的な活動、<b>協</b>：協働（協同）的な活動、<b>言</b>：言語活動】</p> <p><b>主</b> 記録カードや計画表を活用し、児童が自ら計画し活動を進める。</p> <p><b>協</b> 家族の「にこにこ」について調べてきたことを情報交換し、自分のやりたい活動に生かす。</p> <p><b>言</b> 調べたことを情報交換することで、友達とのコミュニケーションを深める。</p>
※区幼保小の共通の視点	

### 展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点（★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫） ◆評価
<p>1 家庭で調べた家の人の「にこにこ」について、分かったことや思ったことを伝え合う。</p> <p>「私が食事の準備を手伝うと家族がうれしそうだった。」</p> <p>「〇〇さんが洗濯物をたたんで家族が喜んだことを聞いてすごいなと思った。」</p>	<p>○児童が見つけた「にこにこ」を記録したカードを内容ごとに整理することで、いろいろな種類の「にこにこ」があることに気付くようにする。</p> <p>○いろいろな種類の「にこにこ」の中で、児童自身の行動が「にこにこ」につながった事例を多く紹介するように促す。</p> <p>★全体での発表の前に、ペアやトリオで話し合う時間を設ける。</p> <p>◆調べてきたことを意欲的に伝えようとしている。</p>
<p>2 「にこにこ」を増やすための計画を立て、計画表に書く。</p>	<p>○自分が調べてきたことだけでなく、友達との情報交換でやりたいと思った行動も取り入れるように促す。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     どうしたら にこにこが ふえるかな                 </div>	
<p>「これからも、毎日食事の準備を手伝うことをがんばろう。」</p> <p>「〇〇さんのように洗濯物をたたむことをやってみよう。」</p> <p>「早寝早起きすることをがんばろう。」</p>	<p>★児童が取り組みやすくなるように、計画表に「やってみたいこと」と「毎日がんばりたいこと」という観点を示し、今から行う活動の見通しをもたせる。</p> <p>◆家の人の方がもっと「にこにこ」したり、うれしくなったりする姿を見たいという願いをもち、積極的に取り組もうとしている。</p>



### <指導のポイント>

**安心・楽しさ**

・自分のしたいことを考え計画できる楽しい話合い活動 **協** **言**

**成長**

・家庭の中で自分がやりたいことへの目的意識・意欲 **主**

**自立**

・自分で計画を実行するという自覚・自信 **主**

事例20—②

第1学年 1月第33週

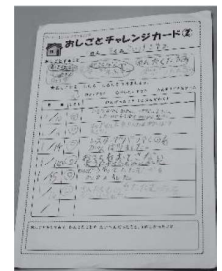
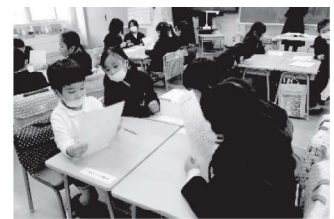
あかるく げんきに 3がっき すたあと

生活科学習指導案

単元名	「みんなの にこにこ 大きくせん ～ふゆやすみ あと～」
本時のねらい	○家庭での活動を伝え合う中で、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分も家庭の一員としての役割を担ったことに自信をもち、これからも積極的に自分ができることを行うようにする。
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	<p>◎冬休みに行った「わたしの にこにこ だいさくせん」を通して成長した自分が、家庭の一員としての役割を担ったことに自信をもち、これからも自分ができることを積極的に行うようにする。</p> <p>○「わたしの にこにこ だいさくせん」の経験を振り返り、自分が役に立った喜びを感じるとともに、今後も続けたいことやもっとやってみたいことを考えられるようにする。</p> <p>○保護者には、活動が終わったときに児童に自信をもたせるような手紙やコメントをもらえるように依頼しておく。</p> <p>○【主：主体的な活動、協：協働（協同）的な活動、言：言語活動】</p> <p>主 計画表を活用し、単元終了後も児童が主体的に活動を継続する。</p> <p>協 冬休みに取り組んだことを情報交換し、友達のやったことを、今後自分がやりたい活動に生かす。</p> <p>言 取り組んだことを情報交換することで、友達とのコミュニケーションを深める。</p>
※区幼保小の共通の視点	

展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点（★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫） ◆評価
<p>1 計画を実行して気付いたことや分かったことを伝え合う。</p> <p>「〇〇さんがやってきたことはすごいなあ。私もやってみたいなあ。」</p> <p>「〇〇さんがやってきたことは、私には思いつかないことだったな。私にもできるかな。」</p> <p>2 これからも、家庭での自分の役割を果たしていこうとする気持ちを高める。</p>	<p>○どのような作戦を実行したか、がんばったことや分かったこと、家の人からの反応を伝え合い、これからも、家庭での自分の役割を果たしていこうとする気持ちを高めるようにする。</p> <p>○家庭に「にこにこ」が増えると生活がよりよくなることに気付くようにする。</p> <p>★全体での発表の前に、ペアやトリオで話し合う時間を設ける。</p> <p>◆自分の行った取組を意欲的に伝えようとしている。</p> <p>○生活科の学習が終わっても、家での役割を果たしていきたいという思いをもつ。</p>
<p>「私は冬休みに食器の片付けをして家族が喜んでくれたから、これからも続けていきたいな。」</p> <p>「〇〇さんがやった作戦はすごかったから、私もこれからやってみたいな。」</p>	<p>これから つづけたいことを かんがえよう</p> <p>★計画表に「おしごとすること」「がんばったこと」という観点を示し、今から行う活動の見通しをもたせるとともに自己評価ができるようにする。</p> <p>◆生活科の学習が終わっても、家庭での役割を果たしていきたいという思いをもつ。</p>



<指導のポイント>

安心・楽しさ

・家族の笑顔イメージできる楽しい話し合い活動

協 言

成長

・取り組みを続けていこうとする目的意識・意欲

主

自立

・自分でできるという自覚・自信、達成感

主

## 事例21-① 小学校教育

第1学年

2月第39週

たのしみだね 2年生

### 生活科学学習指導案

単元名	もうすぐ みんな 2年生 ～ようこそ、わたしたちの 学校へ～
本時のねらい	○新しい1年生(以下、「幼児」という。)に喜んでもらえるように、幼児の気持ちを考えながら関わり方を決め、学校の楽しさを分かりやすく伝える中で、幼児と関わることの良さに気付くことができるようにする。
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	○スタートカリキュラム実施期間終了後であるが、幼児の世話をするという初体験の活動をするため、弾力的な時間割を組み、生活科を中心とした合科の授業を行う。 学校に対する不安や緊張でいっぱいの子供を迎え、学校紹介や授業、給食など、様々な活動をする中で、1年生・幼児ともに緊張が解け、一緒に活動して楽しかったり、頑張っているように感じたり、自信や期待感、感謝の気持ちをもつとともに、次の成長への意欲を高められるようにしたい。児童や幼児の活動の様子を鑑み、柔軟な時間割(60～90分+給食の時間)を設定する。体験入学の準備は、学校体制で行う。 【チャレンジタイム】 ○事前に園児を迎える準備と、その指導をしておく。 ○当日の体験授業や給食は、併設幼稚園があれば、幼稚園教師とTTで指導する(事前に連携しておく。) ○幼児を連れて学校めぐりをする中で、2年生になってすぐに行う生活科の「学校探検」(第1・2学年のペアでの学習)のイメージや見通しをもたせる。
※区幼保小の共通の視点	○【国】:主体的な活動、【協】:協働(協同)的な活動、【言】:言語活動 【国】 幼児を案内したり、一緒に授業を受けて学習の仕方を教えたりする。 幼児たちを新1年生として意識し、2年生(上学年)になる自覚を高め、うれしさを味わう。 【協】 【言】 幼児と一緒に楽しく活動できるようにするにはどうしたらよいか、何を伝えたいかについて話し合い、準備するものを共有したり役割分担をしたりする。

### 展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点(★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫) ◆評価
1 幼児を玄関まで迎えに行きペア(トリオ)になる。	★事前に作成した名前ペンダントを幼児に優しくかける。幼児と一緒に活動を通し、自分でできることへの自信をもったり、自分の課題に気付き、改善したりさせる。
2 学校めぐりをしながら教室へ行く。	○ペアの児童と行う。「学校探検」ではなく、トイレや給食室など、第1学年の教室近辺を歩き、安心感をもたせる。 ★安全に活動するために気を付けることを思い起こさせる。
3 学校紹介「ようこそ小学校へ」(生活)	○幼児に「学校が楽しそう」と感じてもらえるよう事前に話し合い、練習してきた歌や各教科の紹介などをする。 ○前時まで、各グループの学校紹介、司会児童の指導をしておく。また、前時までの活動で提示した入学時や各行事の写真、児童が書いた観察カードや作品などの書き込みが見られるようにテーブルに配置しておく。
4 幼児と学習(算数・図工の合科)をする。 「これでいいのかな。」 「ここに置くといいよ。」 「上手にできたね。」	○児童は、丸や三角、四角を使って「鬼のお面」を作る園児の手助けをする。作るのが難しそうなお子の場合は一緒に作る。上手にできたと言葉にして褒める。 ○児童は、椅子の座り方、姿勢、話の聞き方、手の挙げ方など、幼児の手本になるように励ます。
5 給食の準備をし、幼児と給食を食べる。 「片付けはこうするんだよ。」	○配膳の仕方や片付け方、食品の名前などが教えられるようにしておく。また、楽しく給食を食べるためには、どのようにしたらよいか、グループの中で考え話し合っておく。 ★「長い針が○までに食べよう」など、見通しを立てさせる。
6 幼児を見送る。	○4月の入学を楽しみにしている児童の姿を見せたい。
7 振り返りをする。幼児と活動して楽しかったことを伝え合う。 「楽しんでくれた。」 「優しく言えた。」 「感謝された。」	○具体的なテーマを決めず、自分の思いが自由に話せるようにする。 児童の前向きな発言や活動を認め励ます。 ◆幼児と関わることの楽しさに気付いている。またペアの幼児に分かるように伝えられる。



国語では○○をします。



そのやり方でいいよ。



どうやって食べるの。

### <指導のポイント>

楽しさ

・新しい一年生と仲良く活動をするためのペア・トリオ学習

成長

・気付き、興味・関心、思いやり、意欲

自立

・自分で考え判断して伝える、自信、達成感

【国】 【協】 【言】

## 事例21-②幼児教育 「体験入学」の例

### 「もうすぐ 小学1年生」・・・活動名「小学校って どんなところかな」

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生や他園の幼児と触れ合いながら、授業を受けたり給食を食べたりする楽しさを体験することで、小学校に対する安心感を持ち、入学への期待感をもたせる。</li> <li>○小学校での体験活動を通して、自分にもできると自信を持ち、できるようになりたいと感じたことを、園や家庭生活の中でやってみようとする意欲をもてるようにする。</li> </ul>
<p>スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫</p> <p>※区幼保小の共通の視点</p>	<p>&lt;園の保育者が行事に参画している場合の例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎11月には、幼児たちは保護者とともに入園先小学校に行き、就学時健診を受けている。その際には、学校の様子を少し知り、同じ学校に入学予定の他園の幼児たちと顔を合わせて、緊張や不安を抱いた幼児や大勢の友達ができる楽しみを感じた幼児もいる。</li> <li>小学校への就学が目前に迫る2月に、2度目の小学校訪問となる。様々な園から集まる幼児が、共通の課題に向かって協力してやり遂げ、その達成感や喜びを共に味わい、また、互いの思い伝え合い、友達ともつながりを感じられる活動は必要不可欠である。</li> <li>◎保育者も体験入学に参画し、自園や他園の幼児の成長の様子を観察するとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえながら幼児の成長を見つめ直し、卒園・修了までの1・2ヶ月間をどう過ごしていくか熟考することが大切である(PDCAのC・A)。そして、保護者とも情報共有・共通理解を図りながら、一人一人の成長を目指したきめ細かな援助と、友達や保育者等と楽しく充実した園生活を送ることのバランスを保ちながら見通しをもった保育を展開していきたい。</li> <li>○【<b>国</b>：主体的な活動、<b>協</b>：協働(協同)的な活動、<b>言</b>：言語活動】</li> <li><b>国</b> 進んで活動に参加して楽しむ。</li> <li><b>協</b> <b>言</b> 1年生の話に注意して聞いたり分からないことをたずねたりしながら活動をする。また、他園の幼児とも同じ活動を通して親しむ。</li> </ul>

幼児の活動	保育者の援助(園の教師、または小学校教師)
<p>質問コーナー(幼児側)</p>  <p>▲10の姿:①②③④⑤⑥⑨</p> <p>授業体験(算数・国語)</p>  <p>▲10の姿:①②③④⑤⑧⑩</p> <p>給食配膳</p>  <p>▲10の姿:①②③④⑤⑥⑦⑨</p>	<p>玄関→ペアで学校巡り →第1学年教室へ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>幼「もし、授業中にトイレに行きたくなったら、行けるんですか？」 児「手を挙げて先生に言うと、行かせてくれます。」</p> <p>幼「ぼくは、食べ物で嫌いなものがあるんだけど、残したらだめですか？」 児「大丈夫です。食べ始める前にへらしに行ったらいいんです。」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生の歌や説明をよく聞く。進んで質問する。</li> <li>○1年ペア児童と並んで椅子に座り、算数・国語の授業を受ける。話をよく聞く。</li> <li>★1年生の様子を真似ながら、挙手をして話す。</li> <li>★給食の配膳の仕方をよく観る。分からないことは6年生の配膳担当の児童に聞く。</li> <li>★お盆の持ち方を知り、落とさぬように気を付ける。</li> <li>○みんなで楽しく会食をする。</li> </ul> <p>〈事前に準備しておくこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体験入学の活動内容を事前に伝えることで見通しをもたせ、緊張感を和らげて期待をもてるようにする。</li> <li>○挨拶の仕方や質問の仕方を伝え練習しておく。小学校の先生の指示に従うこと等について話し合っておく。</li> <li>○安全面に気を付ける所や、困ったことが起こったときの対応について話しておく。</li> <li>○分からないこと、聞きたいことは、ペアの児童に自分から聞けるように促す。</li> <li>○体調のよくない幼児やトイレに行きたそうにしている幼児など、幼児の様子に変容があるか注意深く観察する。</li> <li>○丸、三角や四角などの言葉を使って活動を進める。黒板に書く文字は短く少なくする。</li> <li>○始めに必ずトイレに行かせ、手洗いをしたか確認する。ハンカチを忘れた幼児には、ティッシュを渡す。</li> <li>○給食当番は6年生に任せ、1年生は幼児に付き、幼児より先に配膳の仕方をやってみせる。</li> <li>○みんなで「いただきます」の挨拶を元気にさせる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児が誤ってお盆や食器を落とした場合を考慮して、片付け用具や、食器類の準備をしておく。</li> <li>・「いただきます」などの挨拶をみんなでさせる。</li> </ul> </li> <li>○「長い針が〇までいったら、ごちそうさま」など、時計を意識し、見通しをもたせて食べさせる。</li> </ul>





## 事例2 2

第1学年

3月第43週

たのしみだね 2年生

### 生活科学習指導案

単元名	もうすぐ みんな 2年生 ～ありがとう、1年生の きょうしつ～
本時のねらい	○1年間を振り返り自分の成長に気付くとともに、身の回りの環境や周囲の人への感謝の気持ちを持ち、これからも意欲的に生活することができるようにする。 ○入学してくる新1年生のために、自分たちができることを話し合う。
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	◎生活科における授業のまとめとして行う単元である。「初めての小学校、初めての1年生」として様々な活動を経験してきた結果、新しい友達ができ楽しかったり、頑張っでできるようになったりしたことを確認し、自信や感謝の気持ちをもつとともに、次の成長への意欲を高められるようにしたい。また、先日交流した新1年生を迎え入れるために何をしたらよいか、自分たちの入学当初の頃を思い出して考え話し合う活動を行わせる。児童の活動の様子を観て柔軟な時間割(60～90分)を設定する。 【チャレンジタイム】
※区幼保小の共通の視点	○【主：主体的な活動、協：協働(協同)的な活動、言：言語活動】 主 これまで経験してきた様々な活動の記録を見て、一番の思い出を選択する。 協 新1年生のために自分たちでできることを話し合い、準備する内容を共有したり役割分担をしたりするなど、共通の目的の実現に向けて意欲的に活動する。 言 1年間の思い出を友達と伝え合っで楽しむ。

### 展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点(★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫) ◆評価
1 1年間で一番の思い出を選んで、みんなで伝え合う。 「水鉄砲が面白かった。」 「かけっこで1等だ。」 「アサガオの水やりを頑張った。」 「雑巾絞りができるようになった。」	○これまでの授業を振り返り、一番の思い出が選択できるように、前時までの活動で提示した、入学時や各行事の写真・動画など、また各児童が書いた観察カードや作品、キャリア・パスポートなどをテーブルに配置しておく。 ★具体的なテーマを決めず、自分の思いが自由に話せるようにする。 ○様々な家庭環境に配慮し、長期休業中の生活のこと等には触れず、授業の内容に絞る。
2 「一番の思い出」をシートに書く。 ・楽しかったこと ・がんばったこと ・できるようになったこと	○児童の思いや願いである、具体的な3つについて書かせ、1年前より成長した自分に気付かせる(キャリア・パスポートに書く内容とも合致)。 ★思い起こしたり想像したりできない児童には、テーブルの参考資料を見るように促し、自己決定の参考にさせる。 ○タブレット端末を活用し、自分たちの選んだ内容をグループやクラスの友達と共有する方法もある。
3 どのようなことでできるようになったかを考える。	「いっぱい食べるようになり背が伸びた。」「主事さんがおいしい給食を作ってくれたから。」 ◆自分の成長を確認する。先生や自分を取り巻く周囲の方々のおかげで成長できたことに気づき、感謝したりもっと頑張る気持ちをもったりする。
4 新1年生のためにできることを考える。 「黒板に絵や字が書かれていた。」 「机やロッカーが空っぽできれいだった。」 「紙の花が飾ってあった。」	○ICT等を活用し、児童が入学した頃の様子が思い出せる動画や写真、掲示物など見せて、新1年生を迎え入れるためにすることを話し合わせる。 ★入学時の頃の様子や気持ちを伝え合う時間を保障し、それぞれの児童の思いや願いが十分出尽くし、活動への見通しや意欲が高まるようにする。 ★先日の体験入学の時、新1年生たちの質問していたことを思い出させ、掲示物作りの参考にさせる。児童にできないことは教師も協力することを伝え、児童や教師が協働する楽しさを味わわせる。
5 役割分担をして、グループ毎に準備する。	○あらかじめ、教師の方で、活動時間や内容(できること、できないこと)をきちんと説明して黒板等に明示し、安全に楽しく進められるようにする。 例:「校歌のことを聞いていたね。」→「校歌を先生に書いてもらい、僕たちがその周りを花紙で飾ろう。」 「給食当番はどうやるんですか。」→「当番の写真をタブレット端末で撮って掲示しておこう。」
6 振り返りをし、各班での進捗状況を全体で伝え合い次時につなげる。	★新1年生が教室に入ったときに、自分たちが入学したときのようにうれしくなるような教室環境を協力して作ろうとする意識を高めさせる。 ◆入学してくる新1年生の気持ちになって考え、新1年生のために自分たちでできることを話し合うことができる。



### <指導のポイント>

成長

自立

- ・ 気付き、興味・関心、意欲
- ・ 自分の思いや願いが表出できる話し合い活動
- ・ 自分でできるという自覚、自信、達成感

主 協 言  
主